

建廃協NEWS 第57号



広報・企画委員会 編集：新和環境(株) 桑野

■ バイオマス発電施設（株式会社トーセン）見学記 ■

建廃協再資源化委員会で、9月8日（金）に栃木県にあるバイオマス発電施設を見学しました。当施設は、株式会社トーセンが那珂川町から廃校となった中学校をそのまま借り受け、2012年に製材工場の操業を始め、2014年からバイオマス発電として売電を開始した施設です。

最初に事務所で、林業の現状について説明を受けました。日本では森林資源の半分しか山から搬出されず、全体では1/4程度しか利用されていないですが、当施設では、ドイツ並みに100%の利用を目指しているとのことでした。

当施設のメインは製材工場ですが、角材、板材の半製品を製造、グループ会社で製品化しているとのことでした。

当施設は、製材用木材と一緒に間伐材等バイオマス用木材を買い取り、製材により発生する木くずチップ等を利用して、バイオマス発電及び熱供給を行っています。バイオマス発電は2400kWhで規模が小さいことから採算は厳しいようです。FITによる買い取り価格が高くなるよう、未利用材（31円/kWh）を燃料としていますが、一部製材時の木くずが入るため、按分により27～28円程度の買い取り価格のようです。

熱利用は、木材の乾燥用に利用するほか、敷地内のハウスでコーヒーを栽培、またウナギの養殖もしていました。

そのほか、住友林業に隣接する土地でボイラーを設置、住友林業への熱供給とともに、農家にも熱供給し、そこでマンゴーを栽培しています。

このように多角的な事業展開をしていますが、林業関連の補助金を活用しながら、製材をベースに、その一環にバイオマス発電が位置付けられていること、地域、自治体との協力関係がうまくいっていることが、本事業の成功のカギと思われました。

日本の現状		ドイツの現状	
森林 ・未利用森林材 50% ・製材用材 50% (10,000円/m ³)		森林 ・バイオマス材 50% (5,000円/m ³) ・製材用材 50% (10,000円/m ³)	
↓		↓	
製材所 ・製材品 50% ・副産物 50% チップ 製紙用 おが屑 畜産利用 バーク 廃棄物処理		製材所 ・製材品 50% ・副産物 チップ(20%) 製紙用 おが屑(18%) ペレット バーク(12%) 熱利用	



[見学の様子の写真はこちら](#)

■小野組 学会発表 9/8（金）開催■

新たな搬入管理システムの構築に向けて －第28回 廃棄物資源循環学会研究発表会での発表－

処理システム委員会の下部組織である小野組が発足してから約2年半、やっと学会発表ができました。このたびは現場の観点から社会にアピールする良い機会となりました。これも会員の皆様のおかげであると感謝いたしております。

小野組の基本理念は、廃棄物の質的な観点から処理システムを見直し、適正な価格で処理できる建設廃棄物の循環システムをつくりあげることにあります。そのためには、搬入廃棄物の質的データを蓄積し解析して、社会的コンセンサスが得られるような処理システムを構築する必要があります。この観点から若い人を集めて、手始めに工場での質的管理手法としての簡易検査法について勉強してまいりました。今回の学会発表では、有機汚濁性の高い窯業系サイディングボードなどの組成解析や有機汚濁性の公定試験である熱しゃく減量値の曖昧さを指摘する内容の発表を行いました。



今回発表したこれらのデータは、廃棄物の形態だけによる分別から、質的な視点に立った分別への試金石であり、さらには新たなリサイクル製品の製造工場に変身するための第1歩となるものです。

分析機器類などはまだまだフル装備とはいきませんが、これからも皆様の協力を得て、少しずつ廃棄物の質的な基本データを積み上げていき、新たな展開を図っていきたく思っております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

小野雄策顧問

[学会発表者の感想はこちら](#)

■お知らせ■

- ★10月25日に開催いたします「講演の集い」に多数の参加申込ありがとうございました。現在満席になりまして、キャンセル待ちも多数されている状況です。ご迷惑をおかけいたします。
- ★10月13日より17日まで建廃協ホームページのサーバーメンテナンスがありますので、閲覧に不具合が生じることもありますので、ご承知おきください。

お問い合わせは事務局まで 03-5159-8171